



図4-7 シカ被害レベルと樹種区分（霧島山地域）

ヒノキなど人工林が多く見られる。

4-4 人馴れジカの分布状況

4-4-1 調査目的と方法

霧島地域全体で8つのラインを決め、時速20km程度でラインセンサス調査を行い、その途中で出会ったニホンジカの人に対する反応行動を以下のカテゴリーに分け調査を行った。また、他の調査で車道や林道を移動する際も同様に調査を行いデータの収集に努めた。

- i) 人に近寄ってくる
- ii) 近距離（10m以内）で人の存在を気にしない。
- iii) 近距離（10m以内）で静止してこちらを注視する。
- iv) こちらを注視したのち走って逃げる。

4-4-2 結果及び考察

人馴れジカの調査結果は図4-8に示す。

霧島山地域において、雄ジカ23頭、雌ジカ176頭、幼獣12頭、不明1頭の延べ212頭のニホンジカの人馴れ度についてデータを得ることができた。

調査の結果、えびの高原周辺、赤松千本原周辺、湯之野地区周辺、霧島神宮北側にあるペンション村周辺、高千穂河原南側、小池の南側で人馴れ度の高いシカが生息していることが判明した。

また、いずれの地区も霧島地域において人の集まる場所であり、観光客が餌を与えることや、観光客寄せのための餌付け行為が、人馴れジカを生み出している原因となっていると考えられた。

餌付け場所付近に人馴れジカが定住し、給餌が原因でさらに個体数が増加すれば周辺植生への食害や踏圧による影響など森林破壊が一層進んでいくことが懸念される。

4-5 自動撮影法による赤外線センサーカメラ調査

4-5-1 調査目的と方法

シカの生息状況や、生物多様性の指標となるような野生動物の生息状況を把握することを目的として、糞粒調査結果に基づくシカの高密度生息地点や足跡、獣道、寝床、ぬた場等の動物の痕跡が多い地点、全く痕跡がなかった地点等を調査対象地域内で10箇所選定し、赤外線センサーカメラを設置した。

本調査では、フィルム式カメラに赤外線センサーを取り付けたKNER式カメラを使用した。